

本庁舎移転に関する市民説明会 松山会場

日 時：平成 31 年 2 月 4 日（月） 午後 7 時 00～8 時 05 分

場 所：松山支所 2 階会議室

出席者：下平市長、武石副市長、企画政策課（樺山課長、西補佐）、総務課（山田課長、河野危機管理監）、地域振興課（竹田課長）、総務市民課（今井課長）、建設課（假屋課長）

参加者：50 名

【開 会】配布資料確認、日程の説明

【市長挨拶】下平市長あいさつ

【説 明】樺山課長

【質疑応答】

Q 1：平成 18 年に合併して志布志市になったが、その時にどこに本庁を置くかという問題があったと思う。一番人口の多い志布志町に本庁が置かれるものと思っていたが、何故、有明町に本庁を置くこととなったのかを知りたい。

A 1：当時、合併協議会が設置され、2つの委員会で新市の名称と庁舎を置く場所について協議がなされた。名称は志布志市に決まったが、協議会には大崎町も含まれていたため、中心である有明町に本庁を置くことが決まった。

Q 2：東北大震災の時に町役場が津波に流され、30 数名の職員が亡くなられた。現在の志布志支所は崖下であり、庁舎の規模としても有明庁舎の方が大きい。また、駐車場も比べものにならない。港湾のことを考えると、その近くにある志布志支所を何とかしたいと思うが、標高が数メートルしかないところに東北大震災のような津波が来ないとも限らない。基本方針では 2038 年頃に新庁舎の建設を計画しているが、その前に津波が来る可能性はある。現在の志布志支所に本庁を置いて、津波が来た場合、果たして対応ができるのかということと、本庁を志布志支所に移転するよりも、高台の方に新庁舎を建設した方が、誰も反対はしないと思う。現在の志布志支所を活用するとして、スペースの理由で文化会館などに分散した場合、本庁機能が維持できるのかという疑問がある。それよりもお金はかかるが、新庁舎を建設して、災害に強い志布志市としての本庁体制をとれないのかと思う。消防署も上へ上がっている。恐らく警察署も上がると思う。大きな津波が来ると、志布志支所では動きがとれず何もできない。その辺りの考え方を示してほしい。

A 2：志布志支所の標高は 12 メートル、国が想定する津波の想定は 7 メートルである。このことから判断すると、現在の志布志支所については問題ないと考えている。ただし災害本部長は市長、副本部長は副市長と教育長の 2 人体制である。現状で津波が来た場合、有明本庁からは志布志まで約 20 分かかる。志布志支所にいる教育長が指揮を執らないといけないということになると、教育委員会として学校への対応の問題もある。本庁が志布志支所にあれば、津波の状況が目視できるということが、大きなメリットであると考えている。本市は県内で初めて津波防災地域づくり推進計画を策定したところであるが、東北大震災での教訓として、何

が問題だったのかというと、避難しなかった、逃げなかったということが犠牲者が増えた原因であった。まず逃げるということが重要である。これまで防災説明会などで、このような実例を用いて市民に説明しているが、色々な会合でも周知していく必要があると考えている。志布志警察署や国の機関等が市街地にあるが、災害対策については、志布志支所に本庁があった方がかえって充実できる。また、志布志支所への移転よりも本庁舎を建設したらどうかとの意見については、できれば庁舎を建設したいが、財政的な問題もあることから、2038年頃までに基金を造成して、その財源にしたいと考えている。

Q 3 : 参考になればと思って持ってきたが、公共施設を建てるには莫大な借金をする必要があるという固定観念を覆した東京都豊島区の事例を紹介したい。豊島区は新しい庁舎を作る計画を立て、事業費は総額 430 億円だが、肝心のお金がない。そこで池袋駅から徒歩 8 分の小学校跡地に上層階を分譲マンション、低層階を区役所にする一体型マンションを 2015 年に完成させた。駅から近いという立地条件に加え、区役所の利用にも便利ということで、即完売した。販売収入は建設費の一部に充てられ、借金ゼロで新庁舎を建設したというこの情報を是非参考にすれば、志布志市でも庁舎が早く建てられるのではと思い、紹介しました。

A 3 : 民間を活用した庁舎建設も含めて、どのような庁舎づくりをしていけば良いのか、情報収集をしっかりと、市民の意見を十分聞きながら検討していきたい。

Q 4 : これまで本庁舎の移転という話は全然なかったが、今回、移転という動きになったのは、市長が変わったからではないのか。

A 4 : 市長が変わったから本庁舎を志布志支所へ移転するということである。まちの活性化は何かというと人と人の交流、ヒト・モノ・カネ・情報が頻繁に行き交うということである。あわせて庁舎の位置については、地方自治法第 4 条に国県の官公署との関係、交通アクセスが充実していることが謳われている。東九州自動車道、都城志布志道路のインターチェンジがちょうどホームマンの前あたりに建設される予定となっている。志布志港の整備や串間、鹿屋、都城からの交通アクセスの向上が見込まれるこのチャンスを活かさないといけない。これらの活用を力注いでいく必要があると考えている。

Q 5 : 次に市長が変わった場合、また庁舎の移転ということになるのか。

A 5 : それはないと思います。

Q 6 : 東九州自動車道、都城志布志道路が完成すると、ヒト・モノ・カネが志布志市にもたらす影響は計り知れないものとなると思う。そうすると泊まる所、食べる所が必要となってくる。人の集まる所には金も集まる。何よりも港湾関係や国・県との交渉の場としては志布志支所の方が利便性は高いので、是非とも本庁を志布志支所に移転していただきたいと思う。合併の話が持ち上がった時、当時の松山町長は無言を言わずに志布志町と合併する、アンケートも行う必要ない、ということで、それは何故かということ港があるからである。港がいかに重要かを今つくづく実感している。50~60 年前は小さな漁村と権現山が見える風景であったが、現在、安楽川の河口まで港が広がろうとしている。ここに大企業が進出すると必ず金が落ちる。新庁舎建設も企業が金を落としてくれるので、それ程お金はかからないと思う。是非、本庁舎の移転を進めていただきたい。

- A 6 : ホテルの進出の話もあるが、大手企業の進出意向の話もある。これは志布志市の5年、10年先を見据えての考えだと思う。一生懸命取り組んでいきたいと思う。
- Q 7 : 合併前に松山町長が、「行政主導の合併ではなく住民主導の合併でないといけない。」と言われていた。これまで本庁が有明町にあり、私にとって身を削るような思いであった。何故かと言うと、現在の本庁後ろの建物の建設に携わったからである。有明は開田の郷と言われますが、先人達が水路を作り、水を流し、そのおかげで田に水を張って、米を作ることができるようになった。色々意見を聞くと、目先のことばかり聞いているような感じを受ける。次の世代に引き継いでいくためには、3つの町がひとつの輪になっていかないといけない。「行ってみたい、住んでみたい、住んでよかった」まちを目指して行ってほしい。
- A 7 : 合併して3町が志布志市になった訳であるので、今後本市がどのように発展していくのかを見極め、みんなで手を取り合って取り組むべきと考えている。
- Q 8 : 新庁舎建設の時期が有明庁舎、志布志庁舎の耐用年数が過ぎた時期ということを知って安心したが、わざわざ津波危険区域に本庁を移転することは反対である。それから本庁が志布志支所に移転すれば、まちが活性化するという市長の話に理解できない。ホテルや飲食店ができれば、まちが栄えるかもしれないが、行政の事務所があるからということでは理由にはならないと考える。その辺りを分かりやすく説明してほしい。霧島市や県庁は市街地にあった庁舎を市街地から離れたところに建設している。職員は山の中で仕事させれば良いというのが、私の持論である。わざわざ市街地に建物を作らなくても来客者は緑の中に来れば、リフレッシュして帰ることができる。本庁移転すれば、人の交流が密になるとか、繁栄するということが理解できない。
- A 8 : 地方行財政に詳しい鹿児島大学の教授に本庁舎が有明庁舎にあった場合と志布志支所にあった場合の様々なデータ提供を依頼したことがあったが、どこの自治体も少子高齢化が進む中で、このまま本庁を有明に置いたままでは、まちの疲弊は早くなる、国や県の機関、銀行、病院、道路のアクセスなど市街地がしっかり形成されている場所に本庁舎がないと、志布志市は合併した効果がないと指摘された。まちの活性化については、公約にも掲げているが、職員、議員時代から自分なりにどうすべきかを考えてきていた。また本庁舎の建設については、財政状況等も考慮しながら取り組むべきと考えている。
- Q 9 : 庁舎建設については、その借金を子や孫が背負わないようにお願いしたい。また、最近ではテレビ電話等があるので、わざわざ人が動くことはなくなっていくのでは。
- A 9 : 市街地から有明庁舎へは車で5~10分程度だと良く言われるが、企業や事業者からも即座の対応が必要で、電話先の対応ではいけないという声を良く聞いている。携帯などで便利な時代にはなったが、志布志支所から港の状況を眺め、将来をじっくり語るというような、まちづくりを行っていきたい。
- Q 10 : 要望ということをお願いしたい。志布志市の発展に伴って本庁舎を移転するという話だが、そのことで地域間格差が生じるのではと考えてしまう。市街地は発展するが、田舎は廃れてしまうのではないかと心配である。昭和60年から平成21年の30年間で志布志市の人口は7,000人近く減少している。20年~30年後に新庁舎を建設する計画だが、その時の労働人口は今

にも増して少なくなる。その時の費用負担もだが、今後志布志市が発展したとしても、限界集落がある中で、益々寂しくなることが懸念される田舎の方の対策にもしっかり対応してほしい。

A10：過疎化は市街地中心部から離れると、より進行の度合いが高くなる。そのため、松山地域、有明地域、志布志地域、それぞれの地域の状況に応じた対策が必要と考える。一極集中型になると、そのまちの衰退は早くなる。地域にある資源をどのように活かしていくことが重要。各地域の代表者からなるまちづくり委員会を設置しているので、自分達がどのようなまちづくりを望んでいるのか、などを聞いていきたい。また移動市長室でも時間の都合がつけば、対応するようにしているので、是非地域からも声かけをお願いしたい。

Q11：今回3箇所の説明会の終了後については、そこで出された市民の色々な意見を踏まえて検討することもあるだろうが、最終的にはこの方針で決定し、今後はその方針に沿って進めていくことになるのか。

A11：今回は3箇所での説明会としたが、今後、個別での説明会でも対応したいと考えている。この方針の進め方については、6月議会で提案して、議員の3分の2以上の承認が得られないと進めることができない。

Q12：承認がなければ、この方針は白紙となるのか。また、有権者に対して住民投票を行う考えはないか。

A12：議会の承認がなければ、先に進めることができない。議会にしっかりと説明し、理解を得られるよう取り組んでいくということが先決であるため、住民投票については、次の段階での話になろうかと思うので、現時点でその考えには及んでいない。